人生、いろいろあった。
頑張ってきたんだけどね。なんだかね。
どこまでいっても心配ばっかりなんだ。
で、いろいろあって、いろいろ考えて、
大切にしてきたものたちに
ちょっとずつ、別れを告げることにした。

贅沢な消費。
電気。
持ち物。
ガス。
水道。
広い家。
そして会社。
残ったのは取るに足らない自分。
そして、
小さな、
寂しい生活。

（略）

小さな、寂しい生活。
でね、それがね、
もしかすると最高の生活なんじゃないかって
思ったりするわけです。

（『寂しい生活』より引用）

3・11をきっかけに、掃除機、レンジ、エアコン、冷蔵庫まで捨て、
電気代月150円という超シンプルな生活で得たものは？
街全体が我が家となり、笑顔とあたたかい言葉につつまれた、
幸せな生活だった！

自著を語る その❼

入場無料

［寂しい生活］

—2017年 東洋経済新報社刊—

令和元年 12月22日 日 14:00～16:00 （13:30 開場）

安城市図書情報館３階　健康支援室・講座室

定員８０名／一般(高校生以上)対象／先着順／定員になり次第締切

著者：稲垣えみ子（いながき・えみこ）

１９６５年、愛知県生まれ。８７年朝日新聞社入社。
大阪本社社会部、週刊朝日編集部などを経て論説委員、編集委員をつとめ、原発事故後に始めた「超節電生活」を綴ったアフロヘアの写真入りコラムが話題となり「報道ステーション」「情熱大陸」などのテレビ番組に出演する。
２０１６年、５０歳になったのを機に早期退職し、現在は築５０年の小さなワンルームマンションで、夫なし、子なし、定職なし、冷蔵庫なし、ガス契約なしの「楽しく閉じていく人生」を模索中。著書に『アフロ記者が記者として書いてきたこと。退社したからこそ書けたこと。』（朝日新聞出版）、『魂の退社』『寂しい生活』『人生はどこでもドア』（いずれも東洋経済新報社）、『もうレシピ本はいらない』『アフロえみ子の四季の食卓』（いずれもマガジンハウス）などがある。

申込み

令和元年１１月１８日（月）９:００より申込み開始
1.電話 2.ファクス 3.メールのいずれかにて ①氏名 ②連絡先電話番号を添えて、アンフォーレ課までお申込みください。

アンフォーレ anforet
安城市アンフォーレ課 図書サービス係
〒446-0032 安城市御幸本町 12 番 1 号
https://www.library.city.anjo.aichi.jp/
■電　話　0566-76-6111
■ＦＡＸ　0566-77-6066
■メール　tosyo@city.anjo.lg.jp